

微的な変化を示した。その変化の特徴は以下のようにまとめることができる。

(1) 海風前線の侵入直前直後には顕著な鉛直下降流と上昇流が存在することがあり、空気流の発散・収束を伴う。

(2) 海風の侵入は、低高度での乱れのスケールの大きさに影響を与える。

(3) 前線通過後の海風域において、低高度でのウインドシアの増加はエネルギー消散率を増加させる。

これらの結果は海風が侵入する前後の短い時間帯に、極めて非定常な乱れの場合が構成されていることを示唆している。

謝 辞

J.E. Simpson 博士と御親交のある木村竜治博士(東京大学海洋研究所)には、重力流及び海風前線の研究に際し時機を得た資料を提供していただいた。その御厚意に深く感謝致します。また安達隆史博士(財団法人日本気象協会中央本部)には、本原稿を御一読いただき、その上有益なコメントをいただいたことに感謝致します。

文 献

- Chiba, O., 1984: Height dependence of the scale of turbulence and higher-order moments of the vertical wind velocity in the neutral atmospheric surface layer, *J. Meteor. Soc. Japan*, **62**, 312-322.
- 千葉 修, 石川明弘, 広田智佳朗, 1990: 接地気層での海風前線の観測Ⅰ. 海風前線の侵入時刻と前線幅について, *天気*, **37**, 415-419.
- Helmis, D.N., Asimakopoulos, D.G., Deligiorgi, and D.P. Lalas, 1987: Observation of sea-breeze fronts near the shore-lines, *Boundary-layer Met.*, **38**, 395-410.
- 高知空港出張所(高知地方気象台), 1985: 高知空港における海陸風に伴う低層ウインド・シアとその予想法, *航空気象ノート*, **30**, 1-12.
- Mitsumoto, S., H. Ueda and H. Ozoe, 1983: A laboratory experiment on the dynamics of the land and sea breeze, *J. Atmos. Sci.*, **40**, 1228-1240.
- 水野建樹, 1976: 大気乱流のコヒーレンスについて, *公害*, **11**, 320-336.
- Simpson, J.E., 1987: Gravity Currents: In the environment and the laboratory, Ellis horwood limited, 244 pp.

第38回風に関するシンポジウム講演募集

共催: 地震学会, 土木学会, 日本海洋学会, 日本気象学会, 日本建築学会(幹事学会), 日本航空宇宙学会, 日本地理学会, 日本農業気象学会, 日本林学会, 日本流体力学会, 日本風工学会

期日: 1992年3月6日(金)

会場: 京都大学防災研究所 D-570室

講演募集:

- ①応募者は、A4判用紙1枚に題目・講演者氏名(連名の場合同様)・所属学会・勤務先・電話番号・論文梗概(100字程度)を記入し必ず郵送で応募する。

②講演応募締切りは、1月10日(金)(消印有効)

講演開催要領:

- ①講演時間は、1講演15分程度(応募題数により変更もある)
- ②スライド・OHPの使用は可。
- ③前刷集は作成しない。
- ④プログラムは建築雑誌2月号に掲載予定。

懇親会: 講演終了後、考えております。

申込み・問合せ: 日本建築学会

風に関するシンポジウム係